

県立近代美術館 葉山

展覧会「ブルーノ・ムナーリ こどもの心をもちつづけるということ」

同時開催：コレクション展「抽象の喜び」

会期 4月7日(土)～6月10日(日)

芸術からデザインそして児童教育に至るまで独創的な活動を繰り広げたブルーノ・ムナーリ全生涯にわたる作品約320点を紹介する日本最大の回顧展です。

●近代美術館入門講座(葉山町共催・福祉文化会館大会議室)

1. コレクション展「抽象の喜び」について

日時 4月14日(土)10時～11時

講師 橋秀文(担当学芸員)

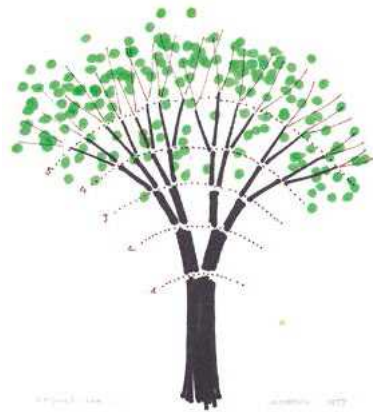
2. 「役に立たない」ブルーノ・ムナーリ講座

日時 4月21日(土)10時～11時

講師 高嶋雄一郎(担当学芸員)

【休館日】会期以外、4月30日を除く月曜日

【問合せ】☎875-2800



▲ブルーノ・ムナーリ《『木をかこう』のための表紙案》1977年、パルマ大学CSAC ©Bruno Munari. All rights reserved to Maurizio Corraini srl. Courtesy by Alberto Munari

町長と葉山のはなし

葉山町長 山梨崇仁コラム

Vol.44 声をあげられる人に
一命を守る「自助」の判断一

2名のうち、火元の列車での死者は6名。火災に気付くのが遅れ、煙が充満したホームに残った「向かいの列車の乗客」が142名も死亡した。

記憶に新しいセウオル号の事故では、船が傾いているにもかかわらず、その場から動かぬようにという放送が1時間以上繰り返され、高校生を含む299名が命を落とした。

非常事態はいきなり起こり、あなたを命の危険に立たせます。裸の王様はいなくとも、周りに流されず声をあげられる「自助」の知識・判断力を養うため、まずは訓練に参加してください。

「王様は裸だ。」
有名なアンデルセン童話の物語など現代ではありえないが、私たちもあの群集と似た心理状態に陥る可能性はある。

例えば、煙を感じるのに火はなくて、しかも誰も避難しないとき。明らかに異常を感じるのに「そこにとどまれ」という根拠のない指示を受けたとき。私たちは、「逃げよう」と判断して声を出すことができないよううだ。いざというときに動けない人の心理を学んだ。

前述の例えは、韓国テグでの地下鉄放火事件とセウオル号沈没事故。いずれも適切な避難行動がなかった人災とも言われている。

地下鉄放火事件で亡くなった19



▲今年3月11日の葉山町防災講演会